



医療事故情報収集等事業

医療 安全情報

手術時のガーゼの残存② — X線画像の確認 —

No.153 2019年8月

医療安全情報No.152「手術時のガーゼの残存①—ガーゼカウント—」(2019年7月)で取り上げた事例57件中、43件で手術終了時にX線撮影が実施されています。そのうち、X線画像でガーゼを発見できなかった事例は26件です(集計期間:2016年1月1日~2019年3月31日)。この情報は、第54回報告書「再発・類似事例の分析」で取り上げた内容をもとに作成しました。

手術終了時に撮影したX線画像でガーゼを発見できなかった事例の多くは、閉創前のガーゼカウントが合っていた事例です。

閉創前の カウント	手術終了時に撮影した X線画像によるガーゼの発見		X線画像でガーゼを発見できなかった 主な背景
	発見した	発見 できなかった	
合っていた	10	24	カウントが合っていたため、ガーゼが 残存していないという前提でX線画像 を確認した
合っ て い な か つ た	7	2	ガーゼが骨と重なっていた
件数	17	26	挿入したドレーン・チューブに注目して 確認した
			画面が小さく、X線画像を確認しづら かった
			X線撮影の範囲にガーゼが残存した 部位が含まれていなかった

手術時のガーゼの残存② —X線画像の確認—

事例 1

緊急帝王切開術を行った。ガーゼやミクリッツガーゼのカウントが合っていたため閉腹して手術を終了した。手術終了時にX線撮影をした際、医師はカウントが合っていたという認識で画像を確認し、脊椎と重なって写っていたガーゼに気付かなかった。その後、患者にイレウス症状が出現したためCT検査を実施した。CT画像でガーゼの残存が疑われ、試験開腹したところミクリッツガーゼを発見した。

事例 2

開心術の際、ガーゼカウントが合っていたため閉胸して手術を終了した。手術終了時に撮影したX線画像にはガーゼが写っていたが、胸骨と重なっていたため医師はガーゼに気付かなかった。その後、退院前に実施した心臓カテーテル検査の際にガーゼが残存していることが判明した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・ガーゼカウントが合ってもガーゼが残っている可能性があるという認識でX線画像を確認する。
- ・X線画像は、大画面モニタを用いて、輝度の変更を行い確認する。
- ・X線画像で確認しやすいガーゼの導入を検討する。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会委員の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.med-safe.jp/>